

事業所名	グループホーム げんき ※
日付	平成19年11月11日
評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター
評価調査員	介護支援専門員・歯科医 介護支援専門員・介護福祉士
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る (改善状況のコメントがあります!)	※

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<p>理念</p> <ul style="list-style-type: none"> げんきな笑顔で入居者の安全・安心をモットーに住み慣れた家での生活と同じように家庭的な雰囲気の中で安心して生活ができるように心がけている。 管理者は入居者が安心して生活ができるように、なじみの関係作りを図るために担当制にして、精神的安定に務め安心してできる環境づくりに努めている。 開所以来の入居者の重度化により人員配置より多くの職員配置を行い、入居者の精神的身体的側面に配慮するとともに、職員の顔色や体調に気を配り、入居者がより快適に過ごせる環境づくりに努力されています。 自分の家族および将来職員が利用したいと思えるようなホームを目指している。 出会いを大切に、笑顔あふれるホームづくりを目指し、人と人の繋がりを大切にしなが家庭的な雰囲気の中で、その人らしく暮らせるグループホームを目指している。 認知症を理解し個人の生活や自己決定にむけての実現に向けたケアを実践されています。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<ul style="list-style-type: none"> 生活歴を把握し、その人を理解することによりできるだけ安心して生活が送れるように、また環境づくりや側に寄り添う事をこころがけた対応がなされています。 集団生活の中であるが、個性を大切にしながら残存能力を活かした対応と、家族の様な雰囲気づくりに取り組んでいる。 家族に生活状況を聞いて、1つでも2つでも今までの生活が続けられるように支援している。 安心して生活できるように1日1日を大切に考え、過していただくように支援している。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のベースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人のできることに配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

1. 評価結果の概要

<p>購評</p> <p>全体を通して (特に良いと思われる点など)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループホームげんきは市内から少し離れた国道沿いの交通の便のよい場所にあり、日本の四季を感じることができる自然な環境にあります。 常に生活スタイルを尊重した生活ができるように支援を提供することを目的に平成14年にA棟を平成16年にB棟を増設されています。 のどかな景観と開放感のある共有のスペースには、入居者の憩いの場としてくつろぎの空間であり、外出の時のスナップ写真等がコメントとともに飾られています。又、さまざまなイベント会場として家族との交流の場にも活 共有のスペースは前面が透明の窓で出入りが自由にでき、窓からの景観は四季折々の景観を肌で感じることができ、心が和む環境にあります。 職員の表情がとても明るく、入居者の方は落ち着いた生活ができています。 いつも笑顔をもっとに、その人らしい人生を送ることのできるように、日々自己研鑽しながら前向きに業務に取り組み、入居者のプライバシーを大切にしたい自立支援と、自由を尊重した暮らしに努めターミナルケアに積極的に対応されています。 個性を大切にしながら残存能力を活かした対応と、家族の様な雰囲気づくりに取り組んでいる。 家族との連携ができており生活歴、生活状況を把握し、少しでも安心して生活できるように1日1日を大切に過していただけるように支援している。その人を理解することによりできるだけ安心して生活が送れるように、また環境づくりや側に寄り添う事をこころがけた対応がなされています。 認知症の方ができるだけ住み慣れた家での生活ができるように、認知症対応型通所介護を積極的に行うとともに、隣接した同敷地内の居宅介護支援事業所等との連携を蜜に行い、在宅介護者の支援にも積極的に取り組んでいます。 <p>特に改善の余地があると思われる点</p> <p>特にありません。</p>

III ケアサービス (つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にしたい整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<ul style="list-style-type: none"> 生活歴を尊重し、その人らしさを大切にしたい日常生活の(入浴・排泄・食事など残存機能に合わせた)自立支援と趣味が楽しめる場づくりや、生活習慣(食事の支度・洗濯・掃除など)を支援している。 入居者同士がお互いに助け合う場を大切にし、精神的安定に努めている。 個人情報に関しては職員教育をおこない、家族には折りにふれ個人情報について説明を行い利用者や家族の同意を得て共同生活の中でのプライバシーの保護にも努めている。 入室時においてもノックや声かけが行われています。 生活歴を把握し、できることをさりげなくしていただくなど経験の尊重に努めている光景が窺えました。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、目頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	<ul style="list-style-type: none"> 主治医および家族との連携を蜜に行い健康管理に努めている。 定期的にケアカンファレンスや内部研修を行い資質の向上および連携が取れる体制を作っている。 勉強会や日々現場での介護技術の伝達・自己研鑽による職員間の質の向上に努めている。 		